

猿ヶ石川再生プロジェクト

猿ヶ石川再生セミナー

平成27年 **2/21** **土** 開会：13：30（開場：13：00）

13：30～14：00 猿ヶ石川再生プロジェクト経過報告
14：00～15：00 講演
15：00～15：30 意見交換

会場：**あえりあ遠野中ホール**

（岩手県遠野市新町1-10 ☎0198-60-1703）

講師：**関岡 裕明 氏**

（ハスプロジェクト推進協議会事務局・福井県）

参加費：無料

・・・猿ヶ石川再生セミナーの目的・・・

雪解けが進むと、遠野郷の母なる川である猿ヶ石川には、多くの釣り人が訪れ、遠野郷の自然を堪能してきました。しかし、近年になり、釣り人の姿も減少し、また、「川が変わってしまった」との声も聞かれるようになりました。その原因については、各団体や個人で様々な憶測が語られていますが、いずれも科学的な根拠に乏しく、そのために、抜本的な対策を図ることができない状況にあります。

本セミナーでは、福井県三方五湖を中心に住民が主体となり環境保全活動に取り組んでいる「ハスプロジェクト推進協議会」の関岡裕明氏を講師に招き、これまでの活動を紹介いただきながら、川を中心とした自然再生について学びます。多くの生命を育む美しく豊かな「清流＝猿ヶ石川」を取り戻すための一歩にしたいと考えています。



関岡 裕明 氏

●主催 / 猿ヶ石川再生プロジェクト [田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会 (上猿ヶ石川漁業協同組合、蓮池川を考える会、NPO 法人遠野山里暮らしネットワーク、NPO 法人遠野エコネット、とうわ野鳥の会、遠野市環境整備部、岩手県県南広域振興局土木部遠野土木センター、国土交通省東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所田瀬ダム管理支所)、船渡ビオトープの会、正一屋、一般社団法人いわて流域ネットワーク、釣り愛好家有志]

●後援 / 環境フロンティア遠野、花巻・遠野流域協議会猿ヶ石川部会

◆問合せ先 / 田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会事務局 TEL 0198-64-2250 E-mail:pahaya@tonotv.com (千葉)

…この事業は岩手県立大学地域政策研究センター地域協働研究の一環として実施しています…



ハス（コイ科ハエジャコ亜科ハス属）
 コイの仲間でオイカワ、カワムツという魚に近い種類の魚。琵琶湖や淀川、三方五湖（福井県）が原産だが琵琶湖産アユの放流により日本各地に住んでいる。三方五湖のハスは側線りん数が45～54枚で琵琶湖の49～60枚より少なく、また琵琶湖のものとは遺伝的に違うため、貴重種といえる（福井県域絶滅危惧Ⅰ類）。

ハスプロジェクトのビジョン



◆ハスプロジェクトとは

福井県若狭町（旧三方町）には、「はす（魚時）川」という川があり、たくさんのハスが遡上してきたことから名付けられました。夏の「はす川」にはたくさんのハスが遡上し産卵したので、水面が盛り上がり見えたそうです。しかし…そんな「はす川」の風物詩は今ではもう見られず、それどころか、ハスの姿さえ見られなくなってきています。

実は三方五湖から消えてしまったか、消えつつある生き物はハスだけではなくありません。このように生き物がなくなった大きな理由として、湖の周りの湿地（水草が生えた水辺移行帯）の消失と水質悪化が挙げられます。湿地は、生き物たちの生活の場であり、子孫を増やす場でした。例えば、田んぼという湿地では、春から夏にかけて、フナ、ドジョウ、ナマズ、メダカの稚魚、7種類のカエルのオタマジャクシ、そしてトンボなどの水生昆虫の子どもたちで大賑わいでした。

若狭町（旧三方町）には1カ所だけ、かつての田んぼを思い出させてくれる場所があります。中山（地区名）のカヤ田です。ここの田んぼでは、フナ、ドジョウ、メダカ、6種類のカエルの子どもたちがいっぱい泳いでいます。ここの田んぼを保全することで日本の里地の原風景を後世に伝え、さらには三方五湖に再び生き物の賑わいを取り戻し、生き物と人間が賑わう水辺を復活させようと立ち上がったのが、ハスプロジェクトです。

◆ハスプロジェクト推進協議会とは

カヤ田の保全活動を通じて若狭地域における里地の原風景を後世に伝え、三方五湖に再び生き物のにぎわいを取り戻し、流域の自然と人間との共生をめざして、自然環境保全活動を行うことを目的としています。

主な活動は、（1）三方五湖流域の自然環境及びその保全対策に関する調査・研究活動（2）自然環境を中心とする環境教育活動（3）カヤ田をはじめとする三方五湖流域の自然環境の保全や復元に関する実践活動です。

（ハスプロジェクト推進協議会ホームページより）



カヤ田の田植え



三方五湖のめぐみ勉強会